

タカサゴユリ

そろそろ開花期が終わりそうで恐縮ですが、今回はタカサゴユリの紹介です。写真は我が家の庭に咲いたもの。テッポウユリに似ていますが、葉が細いことで区別できます。

もう一つの違いは、花びらの外がわ(裏面)に紫の線があること。この特徴は園芸家のお気に召さないようで、近縁のテッポウユリとの交雑により、純白に咲くシンテッポウユリという品種がつくられ、商品化されているようです。



テッポウユリは古くから栽培されてきたのに、どうしてわざわざタカサゴユリとかけ合せたのでしょうか。園芸家が手に入れたかったのは、タカサゴユリの外見ではなく、栽培期間のみじかさです。ユリの仲間では花を咲かせるには、球根の鱗片や木子(きじ)から始めても3～5年、種子からだともっと長くかかるのが普通ですが、タカサゴユリは種子から2年で、場合によっては1年で開花してしまうのです。

タカサゴユリは台湾原産。日本での開花期は8月からですが、本場の台湾では4月中旬から咲くそうです。外来種というだけで目くじらをたてる人もいるので、野外で種を蒔くような行為はひかえたほうがよいでしょう。ただし、特定外来種に指定されることはなさそうです。日本での自生地は岩だらけの急斜面などの荒れ地がほとんどで、しかもたいてい数年で消滅してしまいます。さすらいの侵略者といったところでしょうか。